

『五十音』

北原 白秋

水馬赤いな。ア、イ、ウ、エ、オ。

浮藻に小蝦もおよいでる。

柿の木、栗の木。カ、キ、ク、ケ、コ。

啄木鳥こつこつ、枯れけやき。

大角豆に醋をかけ、サ、シ、ス、セ、ソ。

その魚浅瀬で刺しました。

立ちましょ、喇叭で、タ、チ、ツ、テ、ト。

トテトテタッタと飛び立った。

蛞蝓のろのろ、ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ。

納戸にぬめって、なにねぼる。

鳩ぽっぽ、ほろほろ。ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ。

日向のお部屋にや笛を吹く。

蝸牛、螺旋巻、マ、ミ、ム、メ、モ。

梅の実落ちても見もしまい。

焼栗、ゆで栗。ヤ、イ、ユ、エ、ヨ。

山田に灯のつく宵の家。

雷鳥は寒かろ、ラ、リ、ル、レ、ロ。

蓮花が咲いたら、瑠璃の鳥。

わい、わい、わっしょい。ワ、イ、ウ、エ、ヲ。

植木屋、井戸換え、お祭りだ。

あめんぼ あかいな アイウエオ

うきもに こえびも およいでる

かきのき くりのき カキクケコ

きつつき こつこつ かれけやき

ささげに すをかけ サシスセソ

そのうお あさせで さしました

たちましょ らっぱで タチツテト

とてとて たったと とびたった

なめくじ のろのろ ナニヌネノ

なんどに ぬめって なにねぼる

はとぽっぽ ほろほろ ハヒフヘホ

ひなたの おへやにや ふえをふく

まいまい ねじまき マミムメモ

うめのみ おちても みもしまい

やきぐり ゆでぐり ヤイユエヨ

やまだに ひのつく よいのいえ

らいちょうは さむかろ ラリルレロ

れんげが さいたら るりのとり

わいわい わっしょい ワイウエヲ

うえきや いどがえ おまつりだ

(底本) 白秋童謡集 第五集『祭の笛』大正11年(1922年)アルス刊

*原文を左に、仮名での読み方を右に配置しました。

*底本での旧字体は新字体に、歴史的仮名遣いは現代仮名遣いとしました。

*仮名表記では、原文での句読点を省略し、適宜スペースを挿入しました。